北海道医報
ISSN 0913-0217　2025.9.1. 第1284号
発行人　北海道医師会長　松家　治道
編集人　情報広報部長　橋本　洋一
発行所　北海道医師会
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL (011) 231-1432　FAX (011) 221-5070
URL http://www.hokkaido.med.or.jp/
E-mail info@office.hokkaido.med.or.jp　頒価１部275円（税込）

季節風

腐敗国家との決別

—腐敗認識指数と報道自由度—

情報広報部長　橋本（はしもと）　洋一（よういち）

参議院選挙が終わった。想定された通り、自民・公明与党は、非改選議席を含めて過半数に届かず惨敗に喫した。その結果を受け、首相退陣論が噴出してきた。ここまでは、想定した通りのプロセスで、与野党ともに、政治空白は避けるべきという点では一致しながら、選挙後の政権担当への道筋を示すことができないでいる。

そういった中で、一旦落選したと伝えられ、政界からの引退を表明したものの、まさに強運の持ち主と言うべきか、滑り込み当選した道内選出議員のＳ氏が正論を口にした。

「Ｉ総理に責任はない。裏金議員たちのために、選挙に負けたのだから、責任は彼らにある」という趣旨の発言の後文はまさに正論である。賃金が物価高に追いつかないと生活苦に喘いでいる我々国民に代わって、税金を決定する国会議員たちが裏金を申告せず、開き直り、国税庁も説明責任を果たしていない。

選挙結果は、自民・公明与党が惨敗したばかりではなく、野党第一党の立憲民主党も議席数を増やせず、国民からの支持を得られたとは言い難い。日本共産党、社民党のような歴史ある左派の既成政党も、長期低落傾向から脱却できなかった。議員数を死守できなかった理由について問われても、説得力のある明快な回答がなかったところに、国民から支持を得られない理由が内在している。そういった中で、議席数を大幅に伸ばしたのは、国民民主党と参政党で、前者は穏健な保守層から支持され、後者はより右寄りの保守層から支持された。この２政党の支持基盤はもともとの自民党のそれと重なり、自民党支持者の票が２政党に流れたと類推できる。

過去を振り返ってみると、政治家にとって女性問題は命取りで、75代の宇野総理大臣は女性問題で総理の座を降りた。知人女性との不倫関係が明るみに出て謝罪し、短期間の謹慎処分を経て、あまり時間を置くことなく政治の表舞台に復帰したのが国民民主党の代表のＴ議員。給料の手取りを増やすという身近でわかりやすく現実的な政策が支持されたための議員数の著増だ。しかし、自民・公明与党は約束を守らないと強く非難していたが、自分自身が他者を批判できる資格があるか己に問うことなく、正義のナタを振るって他党を糾弾することに違和感を覚える。

「一番近くにいる人を守れない人は国を守れない」とのＴ夫人の言葉はまさに的を射た発言だ。

今回の選挙は既成政党　対　新党といった図式の一面もあったが、かつて細川氏が率いた日本新党が中心となって、政権が野党連合に移行したが、成果を挙げることなく、短命内閣で終わった。参政党、日本保守党らの新党は在日外国人について治安悪化や日本人の労働力侵害を挙げているが、信頼できる事実に基づいた議論が展開されているとはとても思えない。投票率の増加は大いに歓迎されることだが、一時的な感情に惑わされることのない冷静な判断が投票者である我々国民に求められる。

国家の民主的成熟度の指標として、腐敗認識指数と報道自由度がある。前者の２０２４年ランキングはウクライナが１０５位（腐敗認識指数35）、ロシアが１５４位（腐敗認識指数22）であるところ、日本は20位（腐敗認識指数71）と相対的に高く、裏金問題が浮上しても、自浄能力があると判断されているためであろうか？

後者の２０２５年ランキングは北欧の国々が高位置にあり、日本は66位で、ウクライナも同じ中間位で62位だ。ウクライナのゼレンスキー大統領が「国家汚職対策局」と「特別汚職対策検察庁」の両機関の独立性を制限する法案を成立させた。良識あるウクライナ国民とウクライナを外交、軍事面で支援しているＮＡＴＯ諸国からの支持がなくなれば、ウクライナは世界地図上から消えてしまうかもしれない。

裏金まみれの腐敗国家とは決別し、世界から信頼される報道自由度の高い成熟した民主国家を構築することこそ、日本が歩むべき道だ。